



中之島公園の景観デザイン

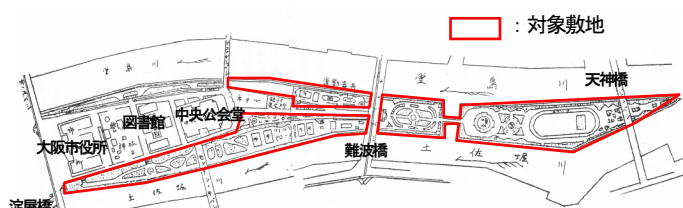
西辻 俊明※1 幡 知也※2 登坂 功※3

1. 概要

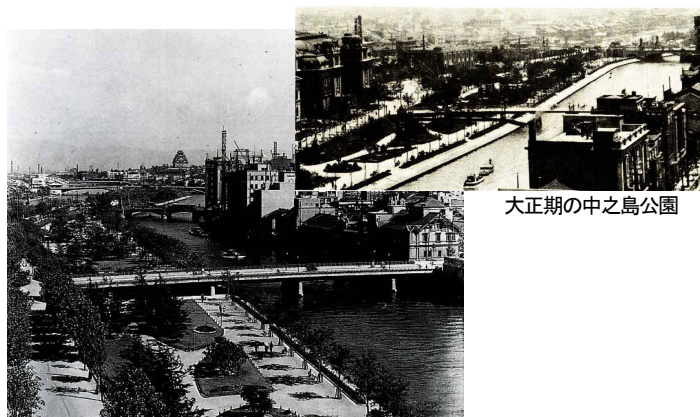
中之島公園は、明治24に供用された風致公園（11.5ha）である。また、周辺には中之島中央公会堂（大正7年、重文）をはじめ府立図書館（明治34年、重文）難波橋（大正4年完成）天神橋（昭和9年完成）や市役所等が立地しており、設置当初からシビックゾーンとしての景観を支える公園であった。

再整備設計にあたっては、引き継がれてきた景観特性を高め、現在の問題点を改善することが重要と考えた。都市デザインの一部として全体性がうかがえた当時の公園形態は、その後の社会的要請等から幾度となく変貌し、かつての河川、建築、橋梁等との景観的關係や一体性は希薄になっていた。

中之島公園の景観デザインの中心は、公会堂前の並木や広場、川に開いた広場や道、川面が楽しめるレストラン等、公園のデザインによって周辺の街との関係性を昼夜を問わず再構築することにあった。



拡張直後の中之島公園(造園雑誌 vol129 高橋理喜男)



昭和初期の中之島公園(両写真：大阪人)

2. 景観デザインの要旨

(1) 設計条件（平成18年再整備基本計画プロポーザル）

- 中之島景観形成地域にあることを踏まえ、景観形成上の留意点や対策を提案せよ。
- 中之島新線利用者への対応や、高低差を活かした利用を踏まえ、堤防線を提案せよ。

(2) デザインのねらい、配慮した点

①基本方向

- ・中之島の歴史・景観の継承と再生
- ・都市・自然・人の関係再生による賑いづくり（昼夜共に）
- ・公共空間デザインから街への暮らしの場づくり

②配慮した事項

・歴史性や場所柄を取り入れた施設設計

周辺の近代建築や橋梁等の歴史的資源や、対岸の街並（北浜テラス等）との景観的一体化を、景観軸や借景の手法により図った。江戸期の納涼・展望や、水際施設であるがん木にみられる中之島特有の空間性について、東端（剣先）の展望路・夕涼み縁台、水上劇場のがん木形態を取り入れた観覧席、水辺のデッキ等により具体化を行った。



バラ園による景観軸



天神橋・八軒屋浜への景観軸



剣先の夕涼み



公会堂前並木による景観軸

公会堂前から難波橋間の堤防線については、難波橋駅の地下構造物との関係、地上部から水辺や対岸の街並みへの視覚効果や、動線等利用面に配慮しながら、堤防線の配置等を行った。



対岸のレストラン
(北浜テラスHPより)



堤防線付近からの眺望



がん木状の水辺空間

バラや水辺を楽しむことのできるレストランを計画に位置付け、公園の景観特性やデザイン趣旨に沿った事業化の方向で調整を図った。



レストラン・バラ園夕景



水辺のレストランタ景

本公園は、冬のイルミネーションや春の中之島祭り等の場となっており、難波橋駅内のアートスペースや公会堂等文化施設との連携利用も期待された。これら運用面に対し、日頃の景観とも調和するように、公会堂前広場・水上劇場（水辺広場）・レストラン前広場・並木間屋台スペース等の賑い広場整備、電源・排水設備整備を行った。



冬のイルミネーション



公会堂前のマルシェ



公会堂からの滲み出し利用

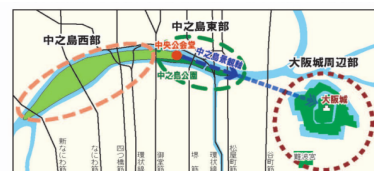


水辺広場での催し

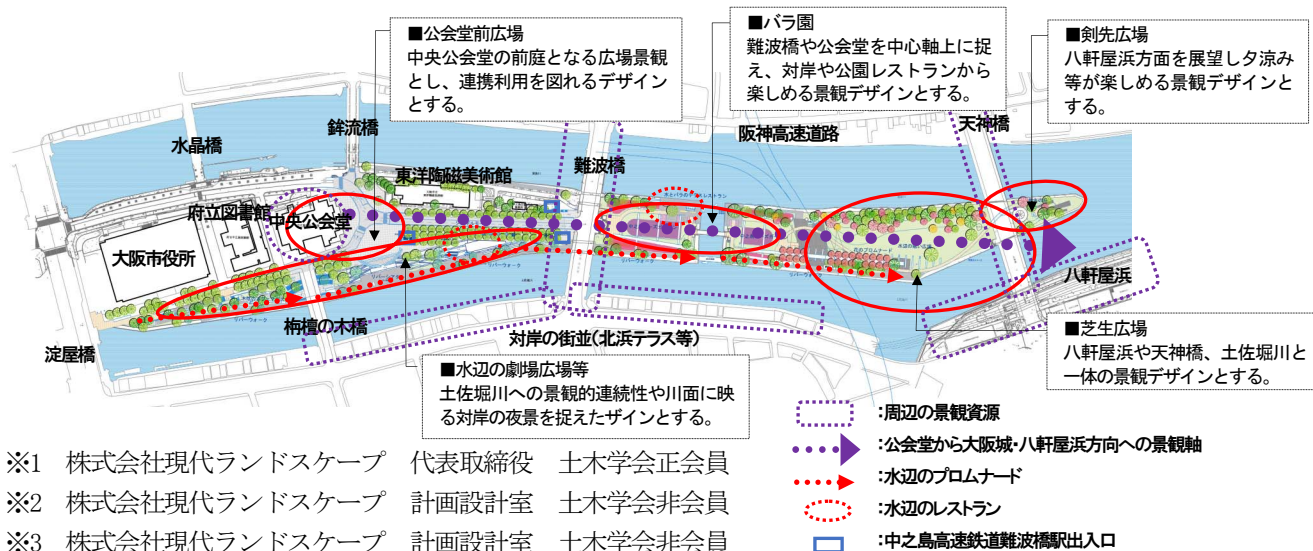
① 周辺の景観資源は、近代建築や橋梁等「歴史的要素」、広場やレストラン、観光船等の「賑い要素」、水面や花緑の「自然要素」に大別でき、ライトアップや営業活動による夜の表情をもっていた。

② これらを、景観軸、水辺の遊歩道や展望地点等の視点場形成、公会堂や駅からの活動の受け皿としての広場づくり等で、景観の連携と強化を図った。

③ 特に、暮らしの見える街の景観（夜間の楽しみ）に少し貢献できたことは嬉



公会堂から大阪城方面への景観軸



※1 株式会社現代ランドスケープ 代表取締役 土木学会正会員
 ※2 株式会社現代ランドスケープ 計画設計室 土木学会非会員
 ※3 株式会社現代ランドスケープ 計画設計室 土木学会非会員